

第1回北塩原村こども・子育て会議（令和6年10月29日開催）意見・提案

（注）意見・質問は要約したもの。回答については、会議での発言に加え、その後、事務局において対応を協議したもの（会議席上での発言内容に追加した箇所あり）。

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
1	こども・若者、子育てを取り巻く現状 ・人口・世帯の状況	意見	修正	【出生者数等の明示について】 ○今後5年間の子育て施策の基本となる計画であるので、今後の出生数の見込み、目標値を示すべき。	【出生数の見込(目標値)を追記】 ○人口減少対策、特に出生者数の減少は当村の喫緊の課題であり、重要な課題であるので、ご意見を踏まえ出生数(目標値)を明示する。 ○数値については、村が策定する他の計画との整合性を図りながら検討する。
2	こども・若者、子育てを取り巻く現状 ・第2期計画の状況	質問 意見	—	【桧原・裏磐梯地区保育環境整備について】 ○以前、村が検討していた「桧原・裏磐梯地区保育環境整備計画」の現状について伺う。 ○保育サービス環境が整っていなければ、移住・定住の視点から見ても、移住の候補先から外れてしまう。	【状況を回答】 ○村全体の重要施策の優先度・緊急度、桧原・裏磐梯地区の出生数の状況から、保育環境整備事業は、現在休止。 ○保育環境は、移住・定住の視点においても密接な関係があるものとして、受け止め、庁内各課と共有する。
3	こども・若者、子育てを取り巻く現状 ・第2期計画の状況	意見	反映	【桧原・裏磐梯地区保育環境整備について (No2を受けてのコメント)】 ○子育て施設や学校は、地域にとって影響力のある施設。 ○そのサービスを受けることができなければ、利用したいという方は住まなくなる。 ○新たに整備することや、既存の施設の活用にしても難しい課題ではあるが、この件は、村が継続して検討していく必要があると思われる。	—

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
4	こども・若者、子育てを取り巻く現状 ・人口・世帯の状況	質問	—	【生産年齢の推移について】 ○生産年齢人口について、令和5年から令和6年の減少が緩やかになった理由はなぜか。 ○村施策等の影響はあったのか。	【状況を回答】 ○外国人の人口は令和5年まで30人から40人の間であったが、令和6年に55人と増加。村内大型宿泊施設やスキー場での雇用等の影響と思われる。 ○裏磐梯地区に整備した公営住宅や空家等への子育て世代の転入もみられた。村による住環境整備や移住、子育て支援策も関係していると思われる。
5	計画の基本的な考え ・策定体制（アンケート）	質問	—	【アンケート調査の対象者について】 ○アンケート調査対象者について、ホテル従業員寮等居住者を調査対象外とした理由は。 ○ホテル従業員の外国人でも子育て世帯である者は、アンケート対象となるという認識で良いか。	【状況を回答】 ○ホテル従業員寮等居住者のうち、単身者を調査対象外とした。 ○従業員寮に居住する方は、数年後に転出する可能性が高く、それらの方の意見を当該世代に含むことになると、一般家庭等に居住する村民ニーズ等が見えにくくなる可能性があるから対象外と考えたもの。 ○ただし、ホテル従業員寮居住者であっても、小学生以下の児童を養育する子育て世帯については、調査対象であり、外国人でも同様である。
6	計画の基本的な考え ・策定体制（アンケート）	意見	修正	【アンケート調査の対象者について（No5を受けてのコメント）】 ○従業員寮に居住する方もオール北塩原との視点で、それらの方々に移住の条件などを調査することも参考になるのではないか。	【アンケート調査対象を見直し】 ○委員の意見を踏まえ、ホテル従業員寮居住者（単身者）の意見を聴く方向で検討する。 ⇒アンケート調査実施済

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
7	資料Ⅰ 策定体制（アンケート）	意見	修正	【アンケート調査の対象者について】 ○移住を検討する方は、こども園に限らず、様々な施策等の状況を比較し、候補先を選んでいく。 ○こども園のことも含め、村内の住環境を充実させていく必要がある。 ○以上を踏まえ、ホテル従業員の意見吸い上げは必要であると考えます。	【アンケート調査対象を見直し】 ○委員の意見を踏まえ、ホテル従業員寮居住者（単身者）の意見を聴く方向で検討する。 ⇒アンケート調査実施済
8	資料Ⅰ 策定体制（アンケート）	意見	対応	【アンケート調査の結果について】 ○行政からのアンケート調査が度々あるが、その結果が不明となっている。 ○アンケート結果や、その後の状況、対応などについて、村民等に対するフィードバックが必要である。	【結果を公表する】 ○アンケート調査等は、施策それぞれの目的のもとに行われて、設問が対象者が重複してしまう場合もある。 ○設問については、よく精査し、回答者の負担を少しでも軽減できるようにする。 ○フィードバックについては、どこまでの情報を掲載するか精査した上で対応したい。
9	計画の基本的な考え ・策定体制（アンケート）	意見	対応	【アンケート調査の結果について（No8を受けてのコメント）】 ○アンケート調査は回答の負担を伴うもの。回答した方も村の取組に参加している実感を持っていたくためにも公表は大事なことです。 ○アンケートの結果が、どのように活用されたか見える仕組みは必要と思われる。	【結果を公表する】 ○フィードバックについては、どこまでの情報を掲載するか精査した上で対応したい。

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
10	計画の基本的な考え・策定体制（パブリックコメント）	意見	一部対応	【パブリックコメント等の広報・公表について】 ○村が以前に行ったパブリックコメントにおいて意見が0件だったことがあったと思われる。実施を知らない村民が多い。 ○村ホームページ等に掲載しただけでは、村民に見られることはない。防災無線を活用し、ホームページに誘導する仕組みはどうか。 ○会議結果についても、村民に知らせる対応をしてほしい。	【多様な広報媒体を活用し広報する】 △パブリックコメントの実施にあたり、防災無線による広報は難しいが、多様な広報媒体を活用するなど、少しでも村民の目に留まる取組をしていく。 ○会議資料は、ホームページに掲載する（会議開催後）。 △会議結果（委員発言・回答）については、同会議の委員及び庁内（課長会議）に示すが、公表は行わないものとする。会議資料の状況が様々な協議を踏まえた内容として確認いただければと考える。 ○パブリックコメントに寄せられた意見は個人を特定する情報を伏せた上で、公表する（ホームページに掲載）。
11	計画の基本的な考え・策定体制（アンケート）	意見	修正なし	【移住者のニーズ調査について】 ○出生数が少ない状況において、移住者を呼び込む視点が地域づくりにおいて重要になってくる。 ○移住する際、各自自治体の施策を比較し、条件が合わなければ、候補先から外れる。 ○村外から視点は重要であり、移住者の方々のニーズ、意見の吸い上げ等が必要ではないか。	【修正なし・意見は庁内各課と共有】 ○本計画の策定における関連性は十分にあるが、移住者の定義が難しいことから、本計画策定において、移住者を対象としたアンケート調査は実施しないこととしたい。 ○この計画の施策体系は幅広いものとなっているが、地域活性化、移住、定住の対策の面からとなると、保健福祉課が事務局として取りまとめる作業としては難しさもあることから、庁内各課に共有し、移住定住施策につなげることにしたい。
12	計画の基本的な考え・策定体制（アンケート）	意見	修正なし	【移住者のニーズ調査について（No11を受けてのコメント）】 ○移住者の視点は村づくりにおいて重要な課題として取り組んでほしい。	【庁内各課と共有する】 ○本計画策定では実施しないこととしたい。 ○庁内各課に共有する。

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
13	計画の基本的な考え ・施策体系	意見 質問	一部 反映	【裏磐梯地区でのこども一時預かりについて】 ○裏磐梯から北山地区にある保育園に預けることは現実的に厳しい。 ○裏磐梯地区にこどもを預ける施設があり、仕事ができるという仕組みがあれば生活も充実する。 ○裏磐梯地区において、こども園が整備できないのであれば、ファミリーサポートセンター事業のような一時預かりを行う施設を整備する計画はあるのか。	【現状について回答】 ○現時点において、こども園に代わる施設を新たに整備する計画はない。 ○村の状況からすれば、地域の力をお借りしながら、既存施設でのファミリーサポート事業が望ましいと考えている。 ○ファミリーサポート事業は市町村事業であるが、同事業を村が直接担うのは、人的にも対応が難しい。 ○喜多方市における事業のように、地域住民の熱意、担い手によりサービス実施の可能性が高まる。 ○民間の施設も含め既存の施設利用も有効であると考えてる。 ○村においては、一時預かりの支援者となる人材を育てる取組を始めたところであり、引き続き、対策を進める。
14	計画の基本的な考え ・施策体系	意見	反映	【若者支援の在り方等】 ○若者支援を受けた方々が、家庭を持つかという点と必ずしもそうとはならない。 ○家庭を持つためには、仕事が必要であるが、村内では不足している。 ○教育の面でも特出するものが不足していると感じる。	【施策の検討に生かしていく】 ○委員の見解、意見を施策の検討に生かしていく。

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
15	計画の基本的な考え ・施策体系	意見	反映	【社会資源の不足等】 ○図書館などの文化的施設が不足。役場からは近隣自治体の施設を案内される。 ○居住は近隣自治体、裏磐梯は遊びに行くところとなりかねない。 ○村に暮らし、聞いてはじめて分かることであり、移住を検討する方からすれば、分からない状況。	【施策の検討に生かしていく】 ○委員の見解、意見を施策の検討に生かしていく。
16	計画の基本的な考え ・施策体系	意見	反映	【ライフステージを通した施策の重要性】 ○子育ては、子育て期間だけではなく、子育て後、高齢期までの生活イメージや見通しといった視点を重要と考える世代が増えている。高齢者が元気に過ごしているという姿も示していく必要がある。	【施策の検討に生かしていく】 ○委員の見解、意見を施策の検討に生かしていく。 ○将来の姿を描けるよう計画にも反映していく。
17	計画の基本的な考え ・施策体系	意見	反映	【村づくりの基本方針の共有】 ○村づくりのグランドデザイン、基本方針が役場内で共有されていないと感じる。 ○中長期的に継続していく意識、体制が必要。	【計画策定に反映する】 ○委員の見解、意見を施策の検討に生かしていく。 ○各課と共有を図る。

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
18	計画の基本的な考え	意見	反映	【村民による子育て環境づくり】 ○理想があっても、自治体が現実的にできることを見定める必要がある。 ○行政が行うことには限界はあるので、地域づくりにおいては、地域住民の担い手の掘り起し、さらには、村民の皆さんがどのように作り上げていくのか鍵になると思われる。 ○持続可能な村づくりにおいて、地域の方々がどのように関わっていくのか仕組みづくりが必要である。	【計画策定に反映する】 ○委員の見解、意見を計画策定に生かしていく。
19	こども・若者、子育てを取り巻く現状 ・人口・世帯の状況	意見	反映	【用語の説明】 ・年齢3区分の年少、生産、老年の年齢（説明）を表記すると分かりやすいと思われる。	【用語説明を追記】 ○ご指摘の用語のほかにも、適宜、用語の説明を追記する。
20	計画の基本的な考え ・推進体制	意見	対応	【こども・子育て計画の周知】 ○計画策定後、どのような形で村民の目に触れるのか明確にするとよいと思われる。 ○子育てダイジェスト版のように分かりやすく示してもらいたい。	【多様な広報媒体を活用しての周知・概要版の作成】 ○第6章計画の推進体制・進行管理において、周知広報のあり方について明確にする。 ○こども・若者の目線を中心に据えた計画であるので、概要版を作成する際には、こども（中学生）が理解できる分かりやすいものとする。

No	箇所	区分	対応等	意見・質問・提案等	回答
21	計画の基本的な考え・施策体系	意見	検討	【裏磐梯地区での子育てにおける負担】 ○片道35分、毎日2往復の送迎。 ○1歳の子どもをチャイルドシートに乗せての送迎が大変。 ○保育料のほか、毎日2往復分のガソリン代と合わせると、かなりの出費となる。 ○遠方からの送迎となる家庭に対し、交通費の補助があると助かる。	【施策の検討に生かしていく】 ○遠方からの送迎におけるご意見として受け止め、施策の検討に生かしていく。
22	計画の基本的な考え・施策体系	意見	反映	【村公共施設の見直し・利活用】 ○村公共施設の見直し・利活用を図る。 ○地域のコミュニティ施設（公園、文化センター、児童館等）、文化施設（図書館等）、子どもを見ながら仕事ができるコワーキングスペース等に活用する。	【計画策定に反映する】 ○委員の見解、意見を計画策定に生かしていく。
23	計画の基本的な考え・施策体系	意見	反映	【村独自の教育グランドデザインの検討】 ○村の強みを活かした村独自の教育グランドデザインの検討。	【計画策定に反映する】 ○委員の見解、意見を計画策定に生かしていく。
24	計画の基本的な考え・施策体系	意見	一部反映	【ライフステージを通した施策】 ○若い世代の呼び込みのために、こどもからお年寄りまで一貫した支援策も、こども施策の中に盛り込む。	【計画策定に反映する】 △基本的な考えの中で反映する。こども・若者、子育て当事者以外に対する施策を個別に記載することは本計画においては控えたい。